長浜市教育センターだより　令　和7年度　第４号
令和７年 12 月 18 日発行

長浜市教育センター
〒526-0292
長浜市内保町 2490 番地 1
TEL 74-3702　FAX 74-3181
E-mail:kyouiku-center@city.nagahama.lg.jp

～タイトル「玉燈」によせて～
「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

GO LAKES！

～皆さんもリフレッシュしていますか～

長浜市教育委員会事務局
幼児課長　森 靖

皆さんプロバスケットボールチーム、滋賀レイクスをご存知ですか？　滋賀レイクスの魅力は、バスケットボールの純粋な楽しさと地域に根ざした活動が一体となって、滋賀県を盛り上げている点にあります。試合会場はお祭りのような高揚感に包まれ、ただ観戦するだけで日常を忘れ、チームとファンが一緒になって熱狂できる空間です。こうした雰囲気こそが、私を滋賀レイクスの試合へ惹きつける大きな理由の一つです。

今シーズンの滋賀レイクスは、戦術の浸透と選手間の連携が深まり、着実に成長しています。現時点の成績は９勝９敗で、西地区 13 チーム中７位。昨シーズンの８勝 51 敗という圧倒的な最下位から比べると、驚くべきスピードでの巻き返しが見てとれます。

何より印象的なのは、観客とチームの一体感です。会場に響く声援や掛け声は選手に直接届き、プレーの原動力になります。「勝利へ」と向かうチームとファンの気持ちが重なる瞬間、会場全体が同じ目標を共有しているように感じられ、喜びや感動があふれます。西川貴教さんの「HOT LIMIT」を用いた応援スタイルや、他チームに負けない大きな声援は、まるでライブ会場にいるかのような錯覚を覚えます。

試合の見どころはテンポの良さと緊迫した展開です。バスケットボールは一瞬で流れが変わるスポーツであり、滋賀レイクスは粘り強い守備からボールを奪い、素早く展開して得点を重ねるため、目が離せない緊張感あふれる試合になります。逆転劇が生まれる場面では観客席が歓喜の渦に包まれ、会場全体が興奮で震えるような高揚を体感できます。その瞬間、観客と選手の心が通じ合い、「この瞬間を一緒に体験できてよかった」と強く思えるのです。

コート上で繰り広げられるプレーの迫力も見逃せません。ダイナミックなダンクシュート、緻密で素早いパスワーク、粘り強いディフェンス――テレビ観戦では伝わりにくい臨場感がそこにはあります。さらにコートサイドやベンチの表情、スタッフや応援席のファンが一体となって試合を作り上げていく様子を間近で体験できるのも、滋賀レイクス観戦の贅沢な魅力です。

試合後には「GAME REPORT」と題する YouTube 配信が会場から行われ、勝利の余韻や試合の振り返りをファンと共有できます。観戦は試合だけにとどまらず、試合前やハーフタイムに近江高校吹奏楽部の演奏やお笑い芸人のショー、大学のチアパフォーマンスなど多彩なエンターテインメントが用意され、子ども向けアトラクションや選手によるファンサービス、ファン感謝祭も充実しています。観客は試合以外にも新しい楽しみ方を見つけられます。

私にとって滋賀レイクスを応援することは、日々のストレスを和らげ、生活に新たな活力を与えてくれる存在になりました。いわゆる「推し活」です。この記事を読んで少しでも興味を持っていただけたなら、ぜひダイハツアリーナへ足を運んでみてください。バスケットボールの専門知識がなくても、会場の熱気に身を委ねれば一体感と高揚感を味わえます。滋賀のチームを一緒に応援しましょう。ちなみに１月 31 日、２月１日は長浜市民、米原市民、高島市民招待デーです。

皆さんも自分に合った素敵な趣味を見つけて新しい刺激を受け、休日にリフレッシュして明日への活力にしてみてはいかがでしょうか。

研究・研修室より

ICT教育推進教師養成講座～びわ湖東北部地域連携協議会～

子どもたちが、調べ学習をするためにタブレットを使ったり、図書室に行ったりと手段を選択している場面が印象に残りました。いくつかの選択肢の中から、自分の目的に応じたものを選べる力の大切さを感じました。(長浜市受講者)

ICTの研修は「タブレット」の活用のみならず、最新の教育事情を知るチャンスが多く学びになっています。
(彦根市受講者)

今回の研修で一番印象に残ったのは、「学校現場でICTを使わないのは、かけ算やわり算を教えないのと同義である」という講師の先生の言葉である。なぜなら、21世紀型学力の資質として情報活用能力があるということを知らなかったからである。今回の研修の内容をふまえて、ICT主任として学校内でのICTの普及に努めていきたい。(長浜市受講者)

ICT教育推進教員養成講座は、彦根市・米原市・長浜市の３市で実施しています。今年度も藤村 裕一 先生（鳴門教育大学院教授・文部科学省ICT活用アドバイザー）を講師にお迎えし、研究授業と研修会を実施してきました。第３回の講座は長浜市立高月小学校 の渡邊 大河 教諭に６年生の社会科で授業をご提供いただきました。

参観後は、子どもが主体となる授業についての協議や藤村教授から「ICTを効果的に活用して主体的・対話的で深い学びを実現する」ための理念と理論をご教示いただきました。それらを日々の実践にいかすことが、長浜市の目指す子どもたちの「真の学力」を育てることにつながります。また、「教員みんなで力を合わせて子どもたちが夢中になって追究し、必然的に力をつける授業づくりを楽しみましょう」というメッセージが印象的でした。

子どもたちが意欲的に活動できる授業づくりとは何か、そこでどんな力をつけていかなければならないのかを明確にしながら教材研究をしていく必要があると思った。また、ネットを使った調べ学習においても教師側も正しく情報を得られる手立てを教えていかなければならないと思った。(米原市受講者)

令和７年度　長浜市教育研究発表大会について

今年度も会場とライブ配信で所属校からご参加いただく、ハイブリッド研修で開催いたします。教育講演会では「授業づくり」について石井英真 先生にご講話いただきます。不易の知恵や文化、現代の新しい学力観や学び方のあり方についてご教示いただきます。ともに学びあえることを心より楽しみにしております。

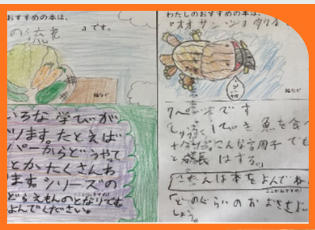
皆様のご参加をお待ちしております。

日時：令和８年２月 １０日（火）　１４：００～１６：３０
会場：浅井文化ホール・所属校
内容：《研究発表》「自分の考えを表現する力」を高める国語科の授業づくりに関する研究
《教育講演会》講師　石井　英真 氏
（京都大学大学院教育学研究科准教授）
演題　授業づくりの方向性と深め方

講師略歴：
1977年兵庫県洲本市生まれ。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。学校で育成すべき資質・能力を構造化・モデル化し、それらを実質的に実現しうるカリキュラム、授業、評価、教師教育をトータルにどうデザインするかの研究をされています。文部科学省「児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ」委員、「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」委員など多岐にわたってご活躍されています。

備考：長浜市内学校園以外の方でご参加いただける場合は、長浜市教育センターにメールもしくはお電話で直接お申し込みください。(〆切 令和8年1月9日)　　＊表紙に連絡先が記載されています

本に親しみ本とつながる子どもの育成に関する研究(１年次)



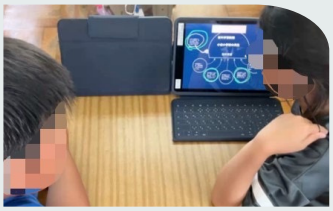
自主的な読書習慣の形成につながる取組～長浜北小学校～

３年生国語科の学習では、隣のクラスの友だちにおすすめの本や心に残った本を紹介する手紙を送り合う「読書郵便」に毎月取り組まれました。自分の読書体験を相手に伝えることで、読書への関心を高めるとともに、何を読んでよいかわからない児童にも新たな本との出会いを提供することをねらいとされました。友だちに本をおすすめするには、まず自分が本の内容をよく知る必要があります。そのため、本をじっくり読み、どうすれば面白さが伝わるかを考え、自分の言葉で表現しようとする姿が見られました。また、学校図書館で活動を行うことで、学校司書と関わることが増えました。「オオサンショウウオの本ある？」などと、自分の興味のある本について気軽にたずねる姿が見られ、本との出会いのきっかけになっていました。

読書体験と体験活動をつなげる～とらひめ認定こども園～

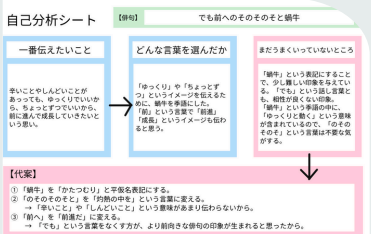
絵本に出てくる“海賊”や“宝島”というキーワードに心惹かれ、自分たちも海賊になって船を作ったり謎解きをしたりして遊び始めました。海賊ごっこをする中でわからないこと（船の仕組み・武器の作り方、装束など）を他の絵本で調べられるように、またさらに親しみがもてるように、海賊の出てくる他の絵本や図鑑を準備しておくと、積極的に絵本を手にとり必要な情報を絵本から得ようとする姿も見られました。また海賊ごっこをきっかけに「わんぱくだん」の他のシリーズの絵本にも興味を広げ手に取ることが増えました。同じ絵本を読んだことで、クラスの友達が同じイメージを共有できる利点を遊びに活かしました。最終的には１学期に始めた海賊ごっこが、運動会まで広がり、海賊になって冒険していくストーリーを様々な運動的な遊びにつなげて表現することができました。

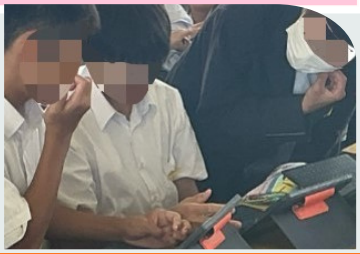
「自分の考えを表現する力」を高める 国語科の授業づくりに関する研究(２年次)



小谷小学校４年生　研究実践授業　北川 恵里 教諭

オリジナル新聞のテーマを心に残ったお気に入りの学習（クリスタルプラザ見学、水生生物調査、ホールの子事業、やまのこ、浄水場見学）にすることで、書きたいという学習意欲が高まりました。また、「小谷小新聞社から○○へ！」と伝える相手を自分で選択することで、伝えたい相手だからこそ単元全体を通して継続した子どもたちの主体的な学びが続いていました。またICT機器を効果的に活用されていました。例えば、思考ツール「クラゲチャート」では、足先にある複数のエピソード（理由）からトップ記事の内容を考えました。どのエピソード（理由）が説得力のある主張かを選択する際に大変有効でした。友だちと何度も交流を繰り返すうちに、自分の考えが確かなものになっていきました。





びわ中学校３年生 研究実践授業　岡﨑 隆祥 教諭

「全国教室俳句コンテストで入選しよう～読み手に伝わる表現をめざして～」という必然性のある言語活動を設定することで、作者側が俳句で伝えたかったことと、 読み手が俳句から感じることを擦り合せたいという思いが生まれ、主体的に学びに向かう姿勢が生まれていました。また、ICT機器を効果的に活用されていました。例えば、「一番伝えたいこと」「どんな言葉を選んだか」「まだうまくいっていないところ」「代案」を書き込む「自己分析シート」です。目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめ、俳句を整えていくという思考プロセスが可視化されました。課題意識を明確にすることで、「読み手に伝わる表現にする」という課題追求への利便性が向上し、一人ひとりがよりよい俳句に仕上げることができました。

教育相談室　登校支援グループより

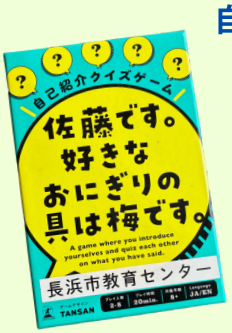
こどもサポートルーム なないろ

こどもサポートルームなないろは、学校に行きにくい子どもたちの居場所となる教室です。ご相談や見学は、長浜市教育センター教育相談室（☎74-3702）まで。

人気のカードゲーム紹介

現在、こどもサポートルームなないろには、市内の中学校から２２名、小学校から１５名の通室生が通っています。今回は、なないろでおこなっている活動のひとつ、「SST・ゲーム活動」から、人気のカードゲームを紹介します！

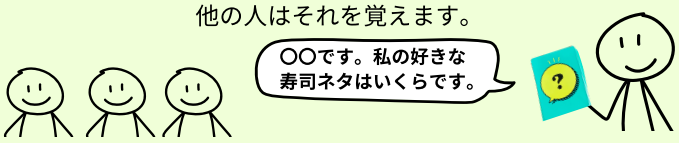
自己紹介クイズゲーム
『佐藤です。好きなおにぎりの具は梅です。』



～自己紹介タイム～

お題カードを裏向きの山札にして、ゲームスタート。

じゃんけんで順番を決め、まずはひとりがカードを引き、自分の名前とお題カードにかかれている内容で自己紹介をします。時計回りで順番に全員がそのお題について自己紹介をして、他の人はそれを覚えます。

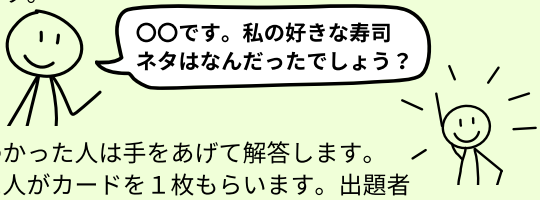


次に、カードを引く人が順に左へ移って、同じことを繰り返します。時間や枚数で区切り、自己紹介タイムを終わります。

～クイズタイム～

自己紹介タイムで使ったお題カードをよくまぜて、裏向きにして山札とします。

最初の出題者から、カードを引いて自分のクイズを出します。



答えがわかった人は手をあげて解答します。

正解した人がカードを１枚もらいます。出題者を変えながら順にクイズ続け、枚数の多い人が勝ちです。

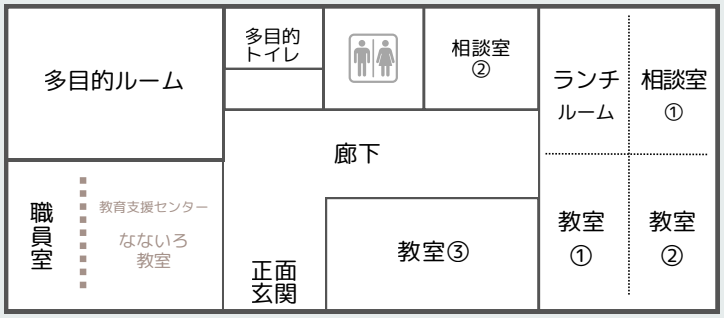
このような楽しいカードゲームを通して、子どもたちのことをよく知ることができます。また、ゲーム感覚なら、初めての対面でも抵抗なく話せる良さもありますよ！

長浜市の新しい登校支援

Ｒ８年度より
なないろ「あざい教室」の施設が
『学びの多様化学校』として活用されます

学びの多様化学校とは、不登校児童生徒に応じた特別の教育課程をもとに教育をおこなう学校です。詳しくは、長浜市ホームページをご覧ください。

なお、来年度もなないろの活動は継続します。なないろの教室は、市内に６か所あります。（大地の家・あざい・ジョイ・ひまわり・みらい・ほっと）



学びの多様化学校（浅井中学校分教室）　見取り図